



津波で被害を受けた中浜小学校の校内

換しながら初動を進められたと伺いました。自衛隊との顔の見える関係が発災直後に機能したということですね。

齋藤 いかなる災害に遭遇しても、初動の72時間が極めて人命救助では大切です。そのような意味では、頼みの綱である自衛隊を先頭とした防災関係機関との機能分担は、普段からの関係の中でいざというときに機動的な対応ができるようにしておくことが肝要だと思います。

市長 その後、応急対策、復旧復興へと進むわけですが、今日は、震災から3年半余りが経過したところでの復興現場にご案内いただきました。津波の爪痕がそのまま残る中浜小学校の様子には胸が痛みましたが、小学校に避難された近隣の方々と児童たちが教員の機敏な判断で校舎の屋根裏部屋に逃げ込み全員助かったというお話には心打たれました。

齋藤 山元町には、海岸線に近いところに2つの小学校があります。2階建て校舎の天井まで津波が来た中浜小学校では現地にとどまりながらも屋上の屋根裏部屋に逃れ、もう1つの小学校ではいち早く役場に避難し、幸いなことに2つの小学校とも人命に影響はありませんでした。やはり海岸線に近い学校をはじめとする公共施設については、普段から盛り土を一定

程度考えると、屋根裏部屋の活用を考えるなどといった工夫がいざというときに生きるのではないかと痛感しました。

市長 この中浜小学校は、現状のまま震災遺構として保存していく計画だと伺いました。小学校から少し南にある磯浜漁港では、復旧事業が進む様子と、防潮堤の工事を見せていただきました。震災前とは少し違う形でより強くなる堤防を造っておられますね。

齋藤 震災前は、縦割り行政の関係で農地海岸と建設海岸の高さが1メートルほど違ったのですが、今回は建設海岸の7.2メートルに合わせていただきました。急勾配の防潮堤が津波の被害を受けたことから、今回は傾斜を緩くし、安定感のある粘り強い防潮堤に造り替えてもらっています。

市長 底辺が35メートルもあると伺いましたが、そのなだらかな形が地震に強く、津波の力を受け流して壊れないということですね。

齋藤 そういうことです。

市長 被災したJR常磐線を内陸部へ移設することに伴い、駅の場所も変更されることから、その駅前を中心とした新しい市街地づくりが行われている新山下駅周辺地区も見学させていただきました。新たな市街地の整備が行われるとなると、これまで別々の場所に住まわれていた方々がある一角にお住まいになることについては住民の皆様のご理解が必要になってきますね。

齋藤 今まで町は、分散・拡散型の地域構造



防潮堤建設現場／山元町内